

平成22年度保健福祉部業務研究等報告会

デイサービスと理学療法士(PT)・作業療法士(OT)  
の連携モデルに関する考察

～デイサービスへのPT・OT派遣支援事業から～

リハビリテーション支援センター  
技師 三浦 禎

# はじめに

- ◆デイサービスとデイケアの機能分担
  - リハビリが必要な方はデイケアへ，不要な方はデイサービスへ
  - 線引きは本人・家族の希望とケアマネの力量
- ◆デイケアの飽和，地域偏在
  - 定員を理由にデイケアに断られる利用者
  - 近隣にデイケアがなく利用できない利用者
- ◆予防とリハビリテーションに主眼をおいた制度改正
  - 日常生活を営むのに必要な機能の減退を防止
  - 機能訓練指導員の配置義務



レスパイト＋主体的な活動を引き出す場

# PT・OT従事状況調査 ～デイサービスへのアンケート調査から～

リハビリテーション支援センター調査（平成21年6月）

調査対象：デイサービス493ヶ所（回収率 55.4% 273ヶ所）

機能訓練・介護予防サービス提供上の課題は何か？(自由記載)

## ◆機能訓練が利用者のためになっているか不安

- ・看護師にできるリハビリには限界がある
- ・専門的な立場から相談できる相手がいない
- ・どんなリハビリをすれば良いか分からない（メニューが単調になってしまう）
- ・在宅生活に役に立っているのかつかめない・・・

## ◆機能訓練の必要性を感じない

- ・病院で行っているようなリハビリは必要ない。レクリエーションが妥当
- ・利用者は機能訓練を望んでいない。かんだリハビリが本当に必要か
- ・後期高齢者が多く、交流や会話をして過ごすのが相当
- ・リハビリ用具がないので、個別対応はできない
- ・利用者全員に「肩もみ」みたいなことをすると、たくさんのリハ職員を抱えなければならない。・・・



# デイサービスへのPT・OT派遣支援事業

## 事業概要

**目的** ①PT・OTの視点を付加することで得られる効果  
②PT・OTの担い得る役割は何か・・・を検証し、  
デイサービス職員とPT・OTの連携の必要性について  
考察すること。

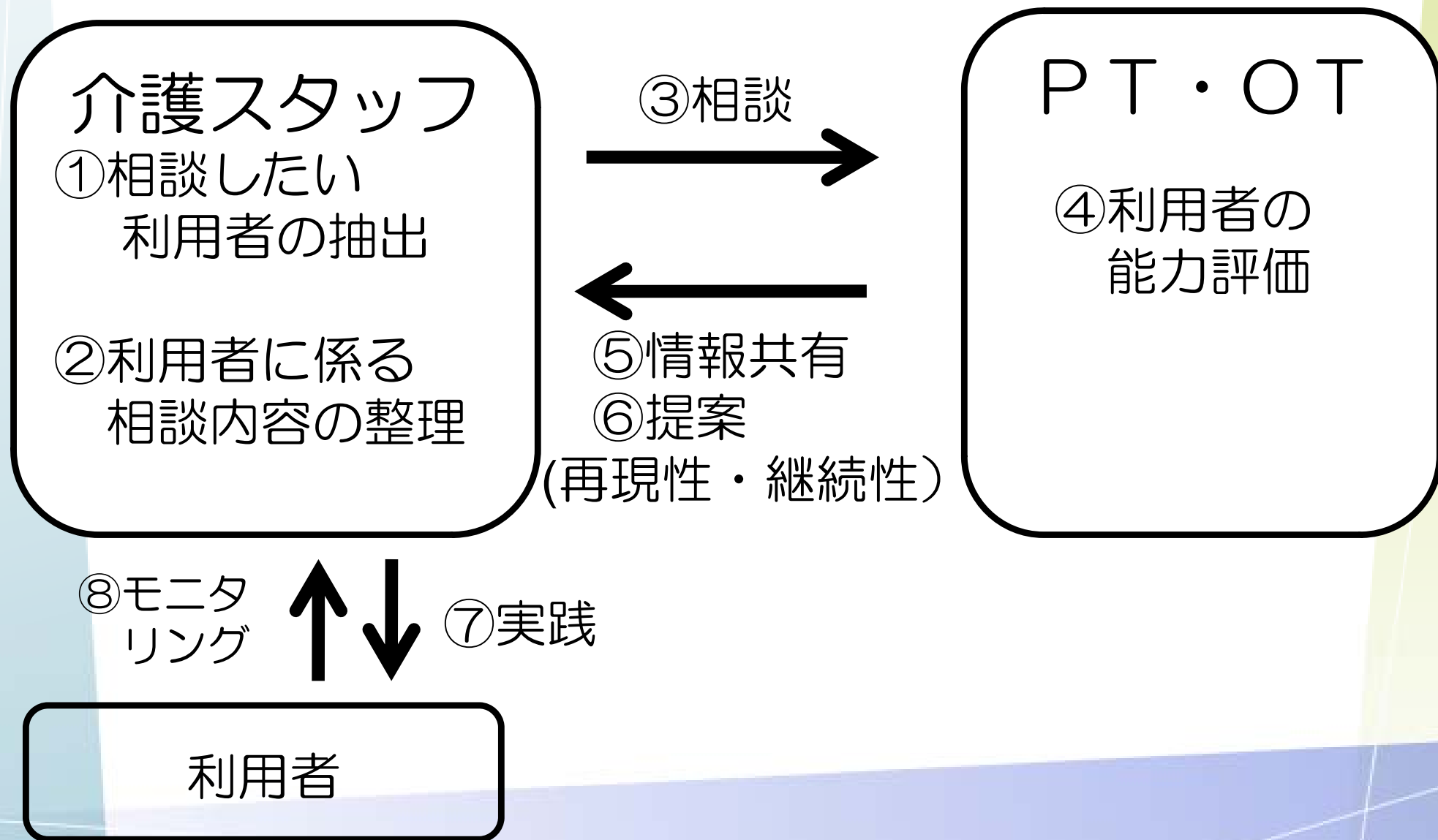
**協力** (社)宮城県理学療法士会, (社)宮城県作業療法士会  
及び両療法士会に所属する会員 (PT3名 OT7名)

**参加事業所** 4ヶ所 (小規模型3ヶ所 通常規模型1ヶ所)

**希望動機** 客観的な評価の必要性, リハビリ内容の検討, ケア技術の検証

**派遣期間・頻度** 平成22年6月～12月 (2回～4回/月)  
〔1事業所当たり, 2～3名のPT・OTが  
ローテーションを組み対応〕

## 介入時の流れ（連携の進め方）



# 事例紹介

氏名 Hさん（86歳 女性）  
現病歴 パーキンソン病（23年前に発症）

生活状況 要介護度3。娘夫婦と3人暮らし。  
平成18年10月からデイサービス利用を開始（週6日）  
利用目的：入浴・リハビリ・日中の見守り（娘夫婦共働きのため）  
リハビリ内容：集団レクリエーション  
下肢筋力訓練（スクワット30～50回）  
※他の時間は車いすに座っていることが多い。

## ADL等の実施状況

移動は屋内，屋外ともに車いす介助で移動。食事以外のADL（歩行，入浴，トイレ，更衣，整容）は全て介助を要する。

# 事例紹介

## OTへの相談内容

パーキンソン病により、車いすでの姿勢が悪く、自宅では度々、車いすから転落してしまう。良好な姿勢を保持し、転落を予防できないか。

## OTのアセスメント結果

- ・強度の円背
- ・不良な座位姿勢（大腿部と腹部が触れそうなほど、前方に倒れ込む）
- ・不良姿勢による活動（食事やレクリエーションなど）の制限

## 介護スタッフとOTで検討した内容

- ・Hさんの座位姿勢を一同で観察。不良な座位姿勢で起こる問題を整理。
  - 「違和感がないか？」
  - 「苦しそうな印象を抱かないか？」
  - 「もう少し楽に座れる方法はないか？」

# 事例紹介

## OTからの提案

①車いすの変更(身体や残存能力に適合した車いすへの変更と適合調整)

- ・ケアマネジャーへ提案

②「車いす」から「椅子」への移乗（食事やレクリエーション）

- ・足台を置き，足底をしっかりとつけるように！
- ・テーブルの高さを調整して，作業しやすいように！

## デイサービスの反応

- ・これまで対応方法が分からず，帯で姿勢を固定。
- ・足台の利用で，姿勢が保たれるようになり，活動しやすくなった。
- ・他の車いす利用者にも転用できた。

→ケアマネジャーより「家族が希望していない」との理由で，車いすの変更には至らず。



# 事例の論点整理

## 上手く座れない！

### デイサービスの視点

- ・ 帯で固定しよう！
- ・ 下肢の筋力をつけよう！

頑張ってレクリエーションに参加できる

### PT・OTの視点

- ・ 身体にあった車いすに変更しよう！
- ・ 車いすでの座りきりをやめよう！

レクリエーションが楽しめる

下肢の筋力をつければ・・・

外出だってできるかも

## 成果（デイサービスからの報告より）

- ◆利用者のリハビリへの関心の高さを認識
- ◆「気づき」の視点の大切さ
- ◆日常での利用者の観察の大切さ
- ◆働きかけの工夫による利用者の意欲の変化



これまで持ち合わせていなかった視点

デイサービスが感じた  
「持ち合わせていなかった視点」とは何か？

## 疾病や障害の特徴の理解

→元々、パーキンソン病は姿勢変換  
とバランス障害を特徴としている

## 将来の生活機能の予測

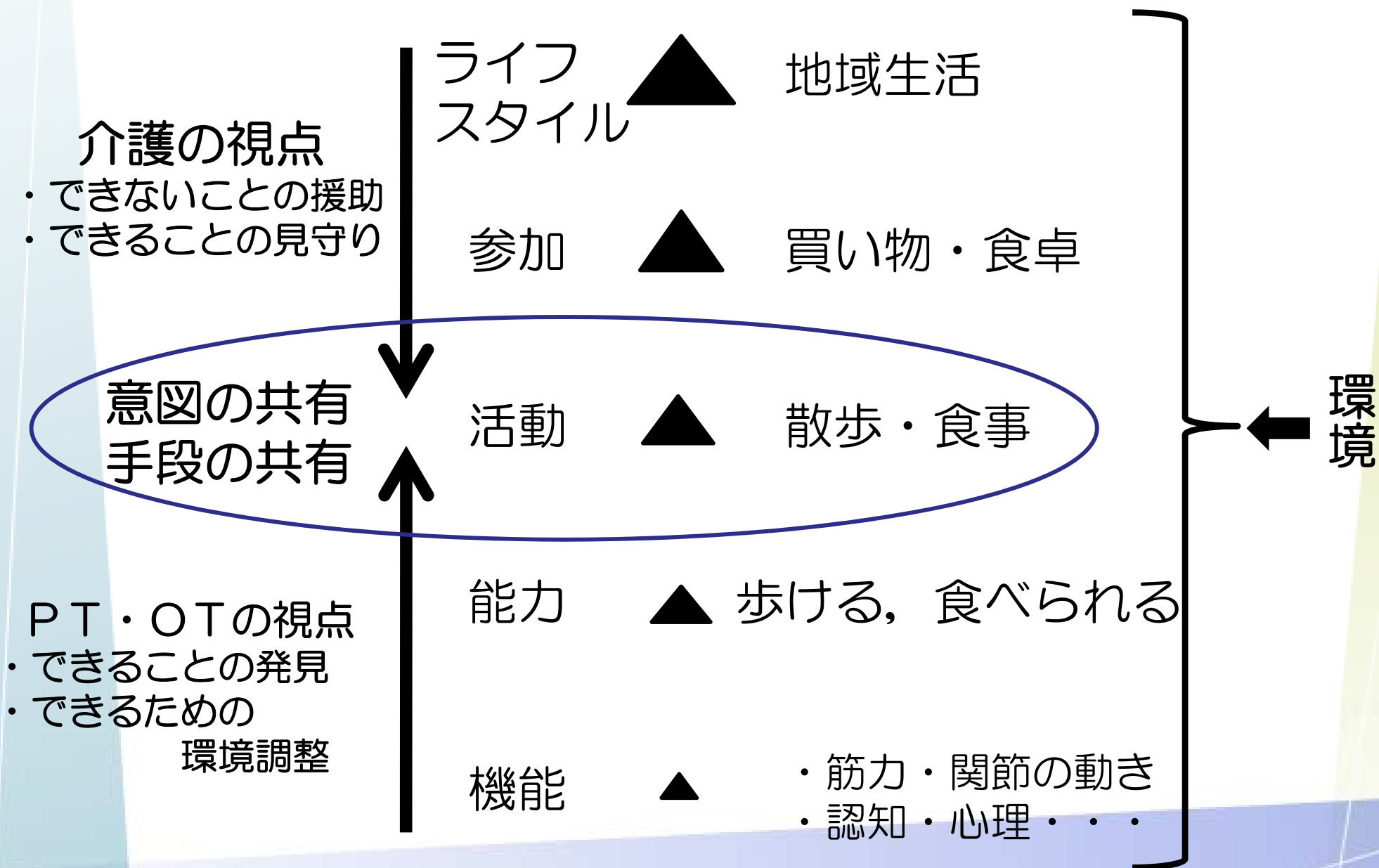
→立つこと、座ることが困難になる  
→様々な活動に苦痛を伴うようになる

## (残存) 能力の把握と 環境との相互作用

→残っている能力をフルに活用しよう  
→少しでも安全に、楽に過ごせるようにしよう

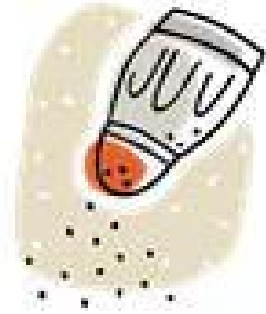
自分たちのケアに  
・裏づけ  
・意味付け  
が得られた

# 一歩進んだデイサービスにするために・・・



# より安全に，より安心できるケアの実現

デイサービスの皆さん！  
壁塗りは左官屋にお任せよ



主体的な活動の支援  
(PT・OTとの連携)

日常生活の援助

家族の介護負担の軽減